

「幸せなら手をたたこう♪～知らないでいることの怖さと残念さ～」

中村 真理（社会福祉士・主任介護支援専門員）

顔面神経麻痺をものともしない熱い講義をありがとうございました。同時に、知らないでいることの怖さと残念さで胸に深い痛みを感じました。

言葉が見つからないのですが、フィリピンの方々の恨み、怒り、悲しみ、大きな十字架を背負った日本の歴史は知らないでは済まされないことでした。

私は戦後世代であり、戦争のことは聞いて知っているのみです。それでも小学校の時の担任の先生は南方の戦地から還ってきた人であり、毎日1時間目は戦争の話でした。幼い頃、立川近辺には足を失った焼夷軍人がハーモニカを吹いていたことやジープに乗ったアメリカ兵を憶えています。母は満州から引き揚げてきました。そこに何があったのでしょうか。テレビのドキュメンタリー番組で知ることもありますし、高齢者に接する仕事をしているため、自然と戦争の話には触れてきました。東京上空、B29が沢山の焼夷弾を落としていた時、地上では多くの人が逃げ惑っていた、その生の体験談は凄まじいものでした。

5年前沖縄の慶良間に旅行した時には、民宿のおばあが、思い立ったように話し始めました。……まだ小学生だった頃、綺麗な青い海は軍艦で埋め尽くされ、日本軍は自決のための爆弾を家族ごとに渡した。たまたま不発弾だったため私の一家は生き残ったが、食料がなく兵士の腐った遺体の上を歩きながら食べられるものを探した。アメリカ兵も沢山死に、小学校の校庭に島民あげて100人以上埋葬した……。

アジア地域での日本軍の悪虐非道について、今はそれをひどい、と言うことができ、ロシアの仕掛けた戦争は対話を欠いた侵略でしかない、と他人事のように言うことはできません。ところが戦争、という状態が作り出す一種の全体主義からは誰も逃れられず、プロパガンダにより洗脳されて正しい情報がわからなくなることは、例外なくいつでもどこでも誰にでも起こるということを知らなければ、油断しているすきに後退していつの間にか巻き込まれてしまうでしょう。今や私たちの子世代には日本がアメリカと戦争をしていたことすら知らない子がいるようですが、全ては教育にかかっています。

ところで、この先バイオエシックスはどこに向かっていくのでしょうか。インフォーム・ド・コンセントを当たり前にし、アドバンス・ケア・プランニングもここから生ま

「この先バイオエシックスはどこに向かっていくのでしょうか」という問いかけですが、そのバイオエシックスが向かう方向を作り出すのは僕たち自身なのです。

問いかけは、大事なのですが僕たちには正しい方向に向けていのちを生きる使命があるのです。

油断しているとヒドイことになります。

お互いに小さくても力を合わせ、日本と世界を変革するためにバイオエシックスを生きていこうではありませんか！

レポートへの心からなる感謝をこめて。

~~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*

木村 利人先生

ご講義をありがとうございました。その上、先生より直接メールをいただけるとは思ってもみなかったので、ゆき様からのサプライズをありがたく頂戴いたします。

先日の講義のレポート（いえ、感想文）を書いた直後、愛猫が乳腺腫瘍と判明しました。子猫の頃に野原で保護し11年、心引き裂かれる思いです。人間並みの手術や抗がん剤治療の説明がある一方で何万という犬や猫の殺処分の報道。コロナ禍で競馬中継を見ていると、一部の馬以外は次々に違う馬が登場するため検索すると、毎年7千頭生まれる競走馬のうち引退馬はほとんどが登録抹消後に行方不明、つまり殺処分されているというのです。人にも動物にも尊厳があるはずですよ。

身近な生命の問題のほか、クローン技術、遺伝子操作、AIの登場によりバイオエシックスはより難しい課題にも向き合うものなのだと思います。

「正しい方向に向けていのちを生きる使命」「お互いに小さくても力を合わせ、世界を変革するためにバイオエシックスを生きていこうではありませんか！」という素敵な言葉をありがとうございました。このいのちをどう生きるか、まるで灯台のようです。

先生の教えを大切にしていきます。

中村 真理